

JAえちご中越 さんとう地域「新之助」栽培暦

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月																																																																																																									
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25																																																																																																					
出穂前後日数	品種特性に合わせた作業計画の策定																																																																																																																																		
生育ステージ	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p>種子消毒 (温湯消毒)</p> <p>浸種開始 4月8日</p> <p>催芽 4月18日</p> <p>播種 4月20日</p> <p>播種量の目安: 150g/箱</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p>「作業目安」</p> <p>4月8日</p> <p>4月18日</p> <p>4月20日</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>出穂前後日数: -20, -11, 0, +43</p> </div> </div>																																																																																																																																		
病害虫防除	<p>【いもち・紋枯病予防】ルーチンブライト箱粒剤 播種時～移植当日</p> <p>除草剤散布</p> <p>「補植苗」を早期に撤去する</p> <p>6月中旬～葉いもち病 早期発見 早期防除</p> <p>★必須防除★ 穂いもち病 ゴウケツ1キロ粒剤 出穂20～10日前</p> <p>【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞりい期</p>																																																																																																																																		
水管理	<p>田植後→3～4cmのやや深水で植え傷み回避</p> <p>活着後→2～3cmのやや浅水で早期分けつ促進</p> <p>除草剤散布時→湛水状態(水深5～6cm)で散布</p> <p>中干し開始まで→浅水更新でフキの発生防止</p> <p>やや深水 一時湛水 浅水更新</p> <p>生育量を把握して遅れず!! 小ヒビが入る程度になったら終了</p> <p>中干し・溝切り</p> <p>飽水管理の継続 ⇄ タメ水厳禁 (異常高温時には一時湛水)</p> <p>フェーンの発生時: 地域の水利条件等に応じたこまめな水管理の徹底で夜間水温を下げる</p> <p>出穂後25日以降(通水最終日)に最終かん水を実施!!</p> <p>落水期</p>																																																																																																																																		
栽培管理のポイント	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 16%;"> <p>Point 1</p> <p>～適正な作業計画の策定により健苗を育成します～</p> <p>① 適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成</p> <p>② 土壌診断結果にもとづく土づくり資材(有機質・ケイ酸)の施用</p> <p>③ 転作跡・ほ場整備直後や、いもち病の発生しやすいほ場で栽培しない→作土深15cmの確保～ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥 →基肥N施肥量のめやす: 「10a 当たり2.5kg～3.0kg」</p> </div> <div style="width: 16%;"> <p>Point 2</p> <p>～適期田植えで初期生育を確保します～</p> <p>① 移植前追肥(べんとう肥)の施用 →活着・初期生育を促進</p> <p>② 田植期のめやすは5月中旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽植密度: 50株/坪 ・植付本数: 3～4本/株 ・植付深さ: 2～3cmの浅植え <p>③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除(箱施用剤)を徹底 →補植苗を速やかに撤去</p> </div> <div style="width: 16%;"> <p>Point 3</p> <p>～生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します～</p> <p>① 田植30日後をめやすに目標穂数の80%(320本/m²=1株あたり21本)を確保してから→適期中干し開始</p> <p>② 全ほ場で溝切り(10条: 3mに1本) →速やかなかん水・排水管理</p> <p>③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行</p> </div> <div style="width: 16%;"> <p>Point 4</p> <p>～病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します～</p> <p>① いもち病・紋枯病の早期発見～早期防除(こまめにほ場巡回)</p> <p>② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続(強い中干し・タメ水→厳禁)</p> <p>③ 出穂後25日以降に最終かん水を入水(落水は出穂28日以降)～異常高温時には、速やかに一時湛水～高温障害を防止</p> </div> <div style="width: 16%;"> <p>Point 5</p> <p>～適切な生育診断による穂肥施用 →品質・収量を確保します～</p> <p>① 穂肥は出穂21～18日前(幼穂長0.5cm)と12～10日前(葉耳間長0cm)の2回に分けて施用 →1回あたり施肥量のめやすはN: 1.0kg、2回合計2.0kg/10a</p> <p>② 2回目の穂肥は確実に施用する</p> <p>③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穂肥を施肥(過剰施肥に注意) →玄米タンパク基準: 6.3遵守</p> </div> <div style="width: 16%;"> <p>Point 6</p> <p>～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～</p> <p>① 出穂後の積算気温: 1050～1100℃を参考に籾の黄化率(85～90%)を確認して適期に収穫する</p> <p>② 胴割粒の発生防止: 刈遅れに注意～籾水分の確認～適正な乾燥温度・速度で急激に乾燥させない →基準適合米に仕上げる</p> <p>③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入+稲わらの秋すき込み</p> </div> </div>																																																																																																																																		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="4">《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)</th> <th colspan="4">《生育のめやす》</th> <th colspan="4">《品質向上・収量確保目標》</th> <th colspan="3">《品種特性》</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>時期</th> <th>N成分</th> <th>備考</th> <th>生育ステージ</th> <th>時期</th> <th>草丈 (cm)</th> <th>莖数 (本/m²)</th> <th>葉色 (SPAD)</th> <th>玄米1等級比率</th> <th>10a当たり収量</th> <th>早晩生</th> <th>耐倒伏性</th> <th>葉いもち</th> <th>穂いもち</th> <th>紋枯病</th> </tr> <tr> <td>土づくり</td> <td>収穫後</td> <td>—</td> <td>稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材</td> <td>1回目穂肥</td> <td>7/23</td> <td>65</td> <td>550</td> <td rowspan="2">33～36</td> <td>90%以上</td> <td rowspan="2">540kg</td> <td>早生</td> <td>やや強</td> <td>やや弱</td> <td>弱</td> <td>やや弱</td> </tr> <tr> <td>基肥</td> <td>～田植え</td> <td>3.0kg</td> <td>地力に応じて</td> <td>2回目穂肥</td> <td>8/1</td> <td colspan="2">*葉耳間長: 0cm</td> <td>晩生</td> <td>やや強</td> <td>やや弱</td> <td>弱</td> <td>やや弱</td> </tr> <tr> <td>穂肥1</td> <td>出穂21～18日前</td> <td>1.0～1.5kg</td> <td>遅れずに施肥～籾数確保</td> <td>出穂期</td> <td>8/12</td> <td>78 (稈長)</td> <td>400 (穂数)</td> <td>34～36</td> <td colspan="3">《収量構成要素》</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>穂肥2</td> <td>出穂12～10日前</td> <td>1.0～1.5kg</td> <td>しっかり施肥～登熟向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>収量 (kg/10a)</td> <td>1穂籾数 (粒)</td> <td>穂数 (本/m²)</td> <td>m²籾数 (百粒)</td> <td>登熟歩合 (%)</td> <td>千粒重 (g)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>—</td> <td>5.0～6.0kg</td> <td>*一発基肥 トータルN: 5.0～6.0kg</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>540</td> <td>70</td> <td>400</td> <td>280</td> <td>82%</td> <td>23.5</td> <td></td> </tr> </table>																									《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)				《生育のめやす》				《品質向上・収量確保目標》				《品種特性》			区分	時期	N成分	備考	生育ステージ	時期	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	玄米1等級比率	10a当たり収量	早晩生	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病	土づくり	収穫後	—	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材	1回目穂肥	7/23	65	550	33～36	90%以上	540kg	早生	やや強	やや弱	弱	やや弱	基肥	～田植え	3.0kg	地力に応じて	2回目穂肥	8/1	*葉耳間長: 0cm		晩生	やや強	やや弱	弱	やや弱	穂肥1	出穂21～18日前	1.0～1.5kg	遅れずに施肥～籾数確保	出穂期	8/12	78 (稈長)	400 (穂数)	34～36	《収量構成要素》						穂肥2	出穂12～10日前	1.0～1.5kg	しっかり施肥～登熟向上						収量 (kg/10a)	1穂籾数 (粒)	穂数 (本/m ²)	m ² 籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)		合計	—	5.0～6.0kg	*一発基肥 トータルN: 5.0～6.0kg						540	70	400	280	82%	23.5
《施肥のめやす》 (成分 kg/10a)				《生育のめやす》				《品質向上・収量確保目標》				《品種特性》																																																																																																																							
区分	時期	N成分	備考	生育ステージ	時期	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)	玄米1等級比率	10a当たり収量	早晩生	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病																																																																																																																				
土づくり	収穫後	—	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸資材	1回目穂肥	7/23	65	550	33～36	90%以上	540kg	早生	やや強	やや弱	弱	やや弱																																																																																																																				
基肥	～田植え	3.0kg	地力に応じて	2回目穂肥	8/1	*葉耳間長: 0cm			晩生		やや強	やや弱	弱	やや弱																																																																																																																					
穂肥1	出穂21～18日前	1.0～1.5kg	遅れずに施肥～籾数確保	出穂期	8/12	78 (稈長)	400 (穂数)	34～36	《収量構成要素》																																																																																																																										
穂肥2	出穂12～10日前	1.0～1.5kg	しっかり施肥～登熟向上						収量 (kg/10a)	1穂籾数 (粒)	穂数 (本/m ²)	m ² 籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)																																																																																																																					
合計	—	5.0～6.0kg	*一発基肥 トータルN: 5.0～6.0kg						540	70	400	280	82%	23.5																																																																																																																					